

Danielle ORCHARD

Harper's Bazaar,

身体性と創作をめぐるダニエル・オーチャードとのダイアログ

February 2024

Harper's Bazaar Japan
身体性と創作をめぐるダニエル・オーチャードとのダイアログ
Shiho Nakamura
February 10, 2024

身体性と創作をめぐるダニエル・オーチャードとのダイアログ

ペロタン東京のディレクター、アンジェラ・レイノルズとアーティストの対談連載。vol.2は、個展「Mother of Gloom」が開催中のダニエル・オーチャードとの対話を通じて、創作の深淵に迫る。

BY SHIHO NAKAMURA

<https://www.harpersbazaar.com/jp/culture/arts/a62438033/angela-reynolds-perrotin-241003-hb/>



PHOTO: AYUMI YAMAMOTO

ペロタン東京ディレクターのアンジェラ・レイノルズ。11月10日まで開催されているダニエル・オーチャード「Mother of Gloom」展にて。シャツ ¥44,000、パンツ ¥92,400 **MADISONBLUE** その他本人私物

ペロタン東京ディレクターのアンジェラ・レイノルズ。11月10日まで開催されているダニエル・

オーチャード「Mother of Gloom」展にて。シャツ ¥44,000、パンツ ¥92,400 **MADISONBLUE**
その他本人私物

ダニエル・オーチャードは伝統的な油絵の技法を用いて、女性の日常生活を捉えた作品を制作してきた。その構図や色彩は、マティスやピカソなどモダニズム絵画を彷彿とさせるかもしれない。しかし絵の中の女性は見られる対象としてではなく、ダニエル自身の体験や感情に紐づけられる。同時に、見過ごされ、語られることを避ける要素をいまだ潜めている、すべての女性と母／母性にまつわる複雑な肖像ともいえるだろう。

ダニエルは3度の流産を経て、今年7月に出産したばかりだ。彼女は、慢性子宮内膜炎が引き起こしたという自身の流産の経験をメディアのインタビューなどに包み隠さず話し、妊娠や流産といったトピックを中心にした展覧会も開催してきた。アンジェラさんは「極めて個人的なテーマを公表し、その決断もそのような経験を共有したこともすごく意義のあること」と話し、絵の中の女性像から実生活での経験までダニエルとともに広く語り合った。

“女性らしさ”に対する曖昧な感情

アンジェラ:あなたが描く女性像は奥行きがあると同時に、女性の身体が持つ独特な感覚を見事に捉えていますね。女性たちは親密な風景の中において、リラックスしたナチュラルな雰囲気、何かを演じているわけではないと思うんです。彼女たちが存在する空間の描き方においても同様のことが言えますね。



© DANIELLE ORCHARD; PHOTO: AYUMI YAMAMOTO. COURTESY OF THE ARTIST AND PERROTIN.
「Mother of Gloom」の展示風景。

ダニエル：私は女性を描いているとき、日々の生活の中でさえも観察されたり評価されたりすることによる緊張感や不安に集中しているから、絵の中の女性がリラックスしていると感じてもらえるのは、すごく面白いですね。女性像は具体的な人物というよりも、例えば神話の登場人物のように、普遍的な経験や事象、性質などを表す象徴やアイコンとして捉えているんです。

近代絵画の言語を用いて女性の身体を抽象化し、現実世界では立体的で複雑に絡み合うできごとをあえて平面的に描くことで、私自身が感じている“女性らしさ”に対する曖昧な感情を表現したいと思っています。

それと、私は絵の中の女性たちに内面性をあえて持たせず、彼女たちの内的な体験をすべて具体的に視覚化しています。例えば、女性たちの周囲に描かれたさまざまな物が彼女たちの感情を象徴していたり。ある意味で彼女たちは、他者が見る自分と自分自身が見る自分との間にある、気まずいような、恥ずかしいようなズレから解放されているとも言えると思います。

アンジェラ: そう考えるようになったことには、ダニエルさんが過去に絵画モデルをしていた経験も影響しているのでしょうか。もしかすると、ダニエルさん自身も裸で過ごす一人の時間が好きなのかな? と想像しています。私も一人暮らしをしていた頃、家ではよく裸で過ごしていたんです(笑)。

ダニエル: 確かに、私自身も美術のクラスでモデルをした経験を通じて、自己と外界との間に存在するその隔たりを感じてきました。私の取るポーズがどんなふう描かれるか想像することに夢中になって、自分の裸が美的にどう表現されるのか客観的に考えていました。でも、アーティストが描いたその絵を見ると、身体のある部分が誇張されていたり、無視されていたりすることもあれば、ストレートすぎるくらい正確に描かれていることもあって。外からの評価をコントロールできるという幻想はすぐに崩れ去りました。

アンジェラ: また、ダニエルさんが6人きょうだいの大家族で育ったことは創作に関連性がありますか?

ダニエル: 大家族で育った経験は、注目されたいという気持ちと、一人になりたいという2つの思いを抱くことになった要因だと思います。そして、この相反する衝動は自分の創作のアイデンティティとして受け継がれていますね。



COURTESY OF THE ARTIST AND PERROTIN.PHOTO: GUILLAUME ZICCARELLI.

制作スタジオにて、ダニエル・オーチャード。

複雑な葛藤をはらむ母性

アンジェラ:「Mother of Gloom」という展覧会のタイトルは、直訳すると「憂鬱の母」という意味ですが、多面的な性質を持つ“母性”が今回の展覧会のテーマの軸になっていますね。国を問わず、母性は「犠牲」や「無償の愛」といった概念に結びつけられ、聖母マリアに象徴されることも多いです。でも、ダニエルさんは、母性には曖昧さや恐れ、労働感、苛立ちなどがともなうときもあることを示唆しています。あなたは出産前からこのテーマに向き合ってきましたね。

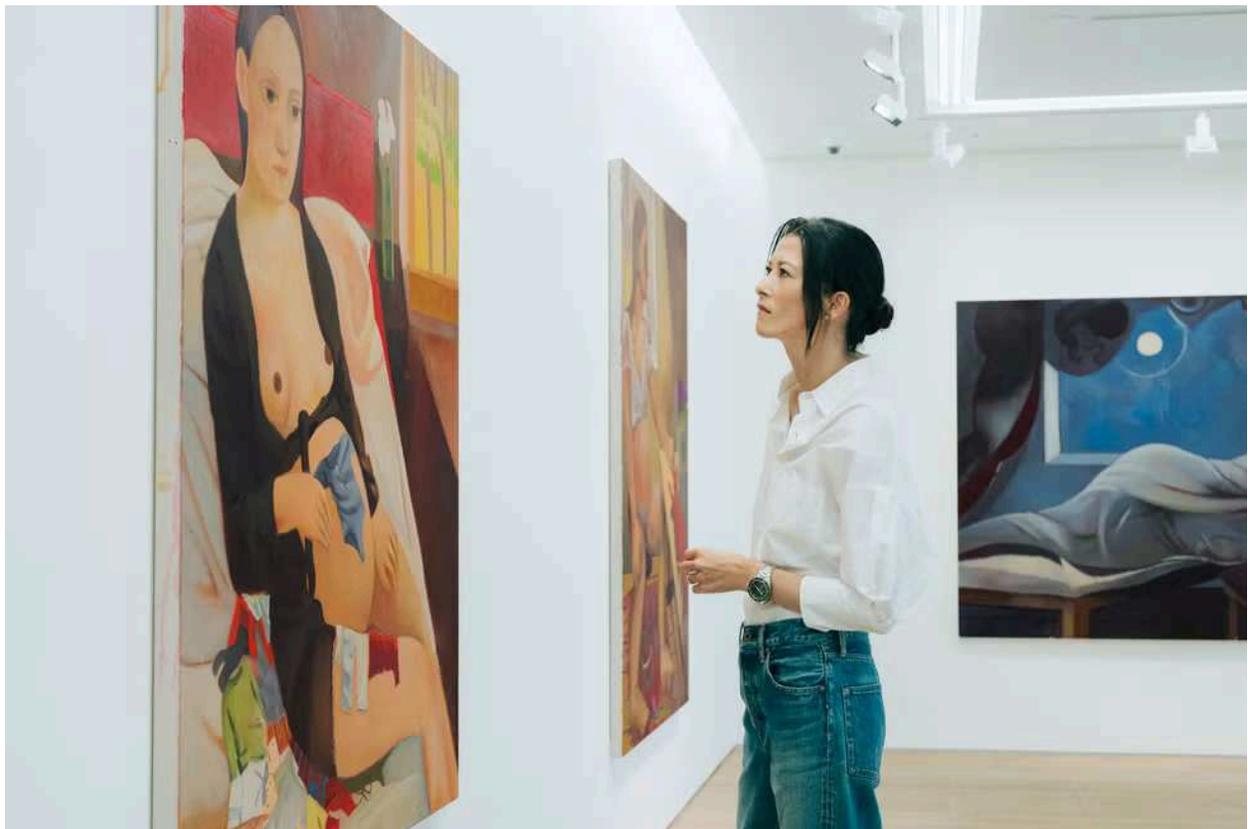
ダニエル:私が見てきた多くの“母親たち”の影響が大きいと思います。姉妹、親しい友人、妊娠に苦しんでいる人たち、そして私の母や祖母……彼女たちは皆、似たような苛立ちを抱えながら、孤立していると感じていました。

出産や子育てという深遠な体験が、人間のさまざまな感情を引き起こすのは当然のことでしょう。でも、ほとんどの女性は、愛や喜びについては話してもいいけれど、疲労や退屈さ、後悔と

いった、負と捉えられがちな感情は人前で話さないほうがいいと考えているのではないかと感じます。

アンジェラ: 母親であることの複雑さを率直に描くことで、理想化された「完璧な母親像」から女性を解放したいと考えていますか？

ダニエル: 絵画が解放する力を持っているとも、画家がそうあるべきだともあまり思わないんです。その瞬間にある美しさや優しさ、普遍的なものを表現できたらいいな、と。



© DANIELLE ORCHARD; PHOTO: AYUMI YAMAMOTO. COURTESY OF THE ARTIST AND PERROTIN.

アンジェラ: 初期のドイツ表現主義を代表する画家の一人で、ヌードの自画像を描いた最初の女性として知られるパウラ・モーダーゾーン=ベッカー(1876~1907)の作品に出合ったそうですが、影響を受けたものはありますか？

ダニエル: パウラが個人的に経験した葛藤は、子どもや母親を描いた作品と同じように心を揺さぶるものがあります。実は、最近開かれた彼女の回顧展を訪れて初めて知ったことがあった

んです。『Self-Portrait on the 6th Wedding Anniversary(結婚6周年の自画像)』という有名な妊婦の自画像の絵画があるのですが、私はてっきり彼女が亡くなった年に制作されたものだと思っていた。でも、実際はパウラが妊娠する前に描かれた作品で、亡くなる前年、パリで夫や家庭に対する責任をすべて捨てて絵に専念しようと決めたときに描いたんだそう。

彼女が感じていた母親像への迷いや葛藤を描いたのか、それとも、うまくいかなかった結婚を皮肉った、ちょっとしたジョークだったのか？ もしかしたらその両方だったのかもしれませんが。しかもパウラは、極めてフェミニスト的なこの自画像(※)を描きながら、生前には発表しませんでした。それは、私たちが画家として何ができるのかを考える上で、とても大事なことを物語っているように思うんです。

※美術史において伝統的に、女性のヌードの肖像画は、主に男性の視覚的な快楽を満たすために描かれたと言われる。この男性の視点からの表現は、女性を観賞の対象や所有物として扱い、彼女たちの主体性や感情を軽視するものでもあった。しかしモダーゾーン=ベッカーは自ら自身のヌードを描いたことで、男性に依存しない女性像を表出させ、当時の社会と芸術界に大きなインパクトを与えた。『Self-Portrait on the 6th Wedding Anniversary』を描いたのは、彼女が亡くなる前年の1906年、30歳のときだった。



© DANIELLE ORCHARD; PHOTO: AYUMI YAMAMOTO. COURTESY OF THE ARTIST AND PERROTIN.
『Mother of Gloom』(2024)リネンに油彩 167.6×218.4cm テーブルの上にある血のついたティッシュや横たわったチューリップ、コップに半分入った水などがそれぞれ女性の感情の暗喩に。

アンジェラ:『Mother of Gloom』という作品は、女性の内なる葛藤を非常に印象的に表現されていますね。主人公の上に浮かぶ3人の女性たちの視線がその様子を映し出していますが、より深い解釈が暗示されていると思います。それは、私たち自身の人生を静かに見つめる内なる目ではないかと。つまり、自分の中に存在する母親的な要素／姉妹のような側面や、子どものような部分も意味しているのではないかと思います。ひとつの空間に共存する複数の自己が視覚化され、美しさとともに、とても深いものを感じました。

ダニエル:私がこの絵で表したかったことを本当にうまく表現してくれてうれしいです。あなたの言葉以上の洞察は難しいかもしれないと思うくらい！

アンジェラ:ダニエルさんは流産と出産を経験して、また、現在育児を通して多くの発見があると思います。どのような変化があったかお聞きしてもいいですか？

ダニエル：妊娠や流産、そして母親になるという経験が、時間の感覚を完全に崩壊させたのは事実だと思う。私の周りにいるすべての母親たちに対する考え方もすっかり変化しました。彼女たちや自分自身を、子どもとして、別の母親として、おばあちゃんとして、また、睡眠不足や乳腺炎に悩む人たちとして、すべてを同時に平らに眺めている感じがするんです。それはちょうど、マトリョーシカ人形みたいなイメージなのかもしれません。

【アンジェラ・レイノルズ対談シリーズ】

[vol.1 連載に向けてのメッセージ](#)

[vol.3 エイミー・カトラー](#)

[vol.4 シグリッド・サンドストローム](#)

[vol.5 エマ・ウェブスター](#)



ダニエル・オーチャード(Danielle Orchard)
1985年、アメリカ、インディアナ州生まれ。マサチューセッツ州を拠点に活動。インディアナ大学で絵画の学士号を取得後、ニューヨーク市立大学ハンター校で絵画の修士号を取得。イタリアのフィレンツェやフランスのジヴェルニーで学んだ経験も。世界各地での個展やグループ展への参加歴多数。インスタグラムのアカウントは[@daniorchard](#)

COURTESY OF THE ARTIST AND PERROTIN. PHOTO: CLAIRE DORN



ペロタン東京

住所／東京都港区六本木6-6-9 ピラミデビル1階

開館時間／11:00～19:00

休館日／日・月・祝

<https://www.perrotin.com/>

PHOTO: KEIZO KIOKU. COURTESY OF PERROTIN



アンジェラ・レイノルズ

東京出身。10代からモデルのキャリアをスタートし雑誌やCMなどで活躍をした後、ロンドンに拠点を移す。帰国後の2006年からジャーナリストとして活動。現在はモデル活動と並行して、フランスのギャラリー・ペロタンの東京ディレクターとして多くの展覧会に携わる。インスタグラムのアカウントは [@angelarey](https://www.instagram.com/angelarey)

PHOTO: HAL KUZUYA

Photographer: Ayumi Yamamoto (Angela Reynolds, Perrotin Tokyo) Hair & Makeup: Yuco Aoki Interview: Angela Reynolds Text: Shiho Nakamura

PERROTIN